

尿路結石症の外科的治療

井上 貴昭, 岡田 真介, 濱本 周造 著

<書評者> 奴田原 紀久雄 (武蔵野徳洲会病院尿路結石治療 24 時間センター長/杏林大名誉教授)

かつての開放手術では、手術の助手につき術野を観察してその外科手技を獲得していった。術者の手の動きと術野ではさみや鉗子の動きは術野を見ているだけでほぼ正確に把握できた。現在主流の内視鏡手術において、手術野は開放手術と比較にならないほどよく観察できる。しかしこの視野を展開するために、術者の手元ではいかなる操作が内視鏡や操作器具に加えられているのかは、術野から目を離さないとわからない。すなわち同時にこの2つを観察し理解することは困難である。この壁を越えるためにシミュレーターやハンズオンがあるが、それでも術者の手元で行われている操作テクニックを解説し尽くすことは難しい。

本書は上部尿路結石治療のスタンダードを示しつつ、それを完遂するためのテクニックを解説した世界的にも類がない良書である。手術テクニックを言語化する難しさは大変なものであるが、第Ⅰ部で使用機器と術前診断、術前感染症対策につき簡潔ながら十分な解説を加え、第Ⅱ部で各術式の基本的手技を驚くほど深入りして紹介している。さらにこれで説明しきれなかった細部を第Ⅲ部の Case Discussion で補足 (というよりこれ自体が卓越した技術伝授書とい

えるが) している。今まで数多くの手術とハンズオンセミナーを行ってきた著者らの経験に基づいた、他書ではまねできない解説書といえる。これらのテクニックを惜しむことなく記載しているのは、著者たちの安全性を確保したうえで上部尿路内視鏡外科治療を普及させようとする情熱にほかならず、同じ道を歩んできた者として尊敬せざるを得ない。

本書の個々の特徴や読ませどころを挙げればきりがながいが、もし読者が初心者であれば術式別の体位の取り方を、本書を参考にお互い被験者となり経験するとよいであろう。どの部位に荷重がかかるかを実感できるはずである。バスケットカテーテルの操作を、術野ではなくベンチ上で練習し (61 ページ参照)、分解組み立てを行うことは (72 ページ参照) すぐに役立つテクニックになる。

またレーザー碎石装置を使用するすべての術者に精読していただきたいのは 13~17 ページのレーザーの特性などが詳説されている部分である。レーザーの特性と碎石原理を本書によって十分に理解し、特に発生する熱による有害事象をなくすコツを広く共有することが重要で、これは今後普及する新しいレーザー碎石装置が導入される段階で特に大きな意味を持つ

であろう。

また経験を積んだ術者の方々にも、少し手強いと思われる症例があった際には第Ⅲ部の Case Discussion の類似した症例を一読しておくことをお勧めする。もちろんそのようなことをしなくても手術を遂行する力があると思うが、トラブルが起こったとき、どのような判断で手術を続行するのか、あるいは撤退するのかなどについて有用な示唆が得られるであろう。

繰り返しになるが、本書はなかなか伝えにくい手術手技の極意といえるものを懇切丁寧に説明している。そしてこれはこのことを踏まえての評者からの著者へのお願いになるが、このテキストをもっと有用に活用できるように、付随した動画集を編さんしていただければと思う。

最後になるが、これこそ著者たちがおいに望んでいたことであると確信するが、本書がこの分野の手術手技の普及と安全性の向上におおいに役立つことを期待してやまない。

● A4 頁 168 2024 年 10 月
定価: 14,300 円
(本体 13,000 円+税 10%)
[ISBN978-4-260-05440-9]
医学書院刊